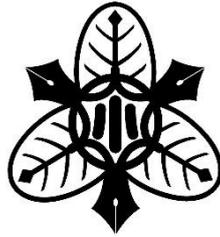


# 学校だより



## 学校教育目標

ふるさとを誇りとし、

夢や目標に向かって

主体的に考え行動する子供の育成

令和6年11月6日 第7号

文責： 校長 井 正成

## 見学旅行、修学旅行でルールやマナーを学ぶ

10月から11月にかけて、1～4年生は生活科や社会科の見学旅行に出かけています。また、6年生は長崎に修学旅行に出かけました。このような旅行の機会を子供たちはとても楽しみにしており、貴重な学びと思い出づくりができたようでした。また、このような旅行の機会は、集団行動や公共の場所でのルールやマナーについて学ぶ貴重な機会でもあります。「あいさつ」「時間を守る」「一般の方に迷惑をかけない」「感謝の気持ちを表す」「落ち着いて行動する」など、事故防止のためにも、社会に出てからも必要となる大切なことばかりです。引率の職員にとって、最もエネルギーを使って指導している部分でもあります。子供たちは、今回の旅行では、おおむねマナーやルールを守って行動できていたようでしたが、気になる点もあり、今後も指導しなければならないこともあったようです。

家族で外出する機会も多いかと思います。日ごろから、公共の場所でのルールやマナーについては、ぜひ、心がけてご指導いただければ幸いです。

## 修学旅行をとおして身近な人権について考える

6年生は、長崎に修学旅行に出かけました。1日目は長崎市内で平和学習を行いました。平和公園周辺でフィールドワークを行ったり、原爆資料館を見学したりする中で、改めて戦争は二度としてはいけないという思いを強くしました。

また、胎内で被爆した方の講話をお聞きしました。まとめの中で、「戦争は二度としてはいけないということは当然だが、みなさんにお願いしたいのは、身近な人を大切にする、いじめや差別を絶対しないこと」という趣旨のお話をさせていただきました。

6年生は、修学旅行の直後の先週木曜日に「阿蘇中校区差別をなくす子供集会」に参加しましたが、この集会は、改めて戦争や人権について考える機会となりました。阿蘇小の6年生が、修学旅行で学んだことを日常生活につなげて考える寸劇をしてくれました。講演会も行われ、講師の方から「戦争や差別は、身近のところでのたった一つの悪口や落書きから始まる」というお話がありました。

人権の問題は私たち大人も、常に学び続けなければなりません。「阿蘇中校区差別をなくす集会」に私も参加しましたが、改めて大切であると感じたことが2点ありました。

1点目は、自分の思いをしっかりと伝えることの大切さです。集会では、3人の中学生が自分の思いを作文にして語ってくれました。真剣に語る中学生の姿を見て、子供たちも、自分の思いをしっかりと伝えることの大切さを感じたものと思います。学校でも、家庭でも、子供たちが自分の思いを素直に語るができる環境を作るようにしなければならないと思います。

2点目は「正しく理解する」ことの大切さです。正しく知ろうとせずに、「あの人は～だから」といった予断や偏見で、人を傷つけるような言動をしていないか、常に私たち大人も自分を振り返り、改めて子供たちを育てる立場として襟を正さなければならないと感じました。

## 【学校公開日】 11月26日（火）に持久走大会を実施します

走ることが「好き」「嫌い」「楽しい」など、子供たちは、「持久走」に対して、いろんな思いを持っているかと思います。「走る（運動する）ことで脳の前頭前野が活性化する」ということがよく言われます。私も学生時代に陸上競技をしていましたが、走っている途中に、いいアイデアが浮かんだり、気分がよくなったりするといった経験をよくしてきました。

これから子供たちの持久走大会に向けた練習が本格化します。昨年の様子を見ていると、体育の時間以外にも自主的に練習する子供たちの様子が見られました。また、大会当日の子供たちの走りを見て、元気をもたらすことができました。

家庭で、練習の状況や目標などについて会話することを通して、子供たちへの意欲付けをお願いします。当日のご案内は改めていたしますので、お時間のご都合がございましたら、ぜひ、子供たちの頑張りの様子をご参観ください。

## 学習にも力を入れる 11月に

12月上旬に、学力調査（2年生以上）と学習状況調査（全学年）を実施します。学力調査は11月までの学習内容がどの程度定着しているかを把握し、今後の本校の授業改善や子供たち一人一人の個別の指導につなげていきます。学校では、この学力・学習状況調査の時期を年間の一つの節目と考えて、子供たちの学力の定着を図りたいと考えています。

前回の学校日より家庭学習についてご協力をお願いしましたが、家庭での様子はいかがでしょう。お仕事等で忙しい中とは思いますが、お時間の許す限り学習の様子を見てあげてください。一つの問題が「分かる」「できる」ことが小さな自信となり、「ほめる」「認める」といった一言が子供たちの学習意欲の向上につながります。「宿題をしなさい」の言葉より、「一緒にしようか」「分からないところは一緒に考えるよ」といった子供に寄り添った言葉のほうが子供の意欲ややる気につながるかと思っています。

## 年度末、年度始めの転出、転入の情報がありましたらお知らせください

年度も後半に入り、学校では来年度の準備を始める時期となりました。特に、来年度の児童在籍数の把握は慎重に進めなければなりません。国や県の基準により、小学校の1学級の人数の上限は、通常学級は35人、特別支援学級は8人となっており、学級数により教職員数も変わってきます。

以上の点から、来年度の在籍数把握のため、これから年度末、年度始めにかけて他校に転出する予定（可能性）がある方は確実に、また、できるだけ早めに教頭か担任にお知らせください。

また、転入予定の児童の情報もご存じでしたら、同様にお知らせいただきますようお願いいたします。

※日没が早くなっています。「暗くなっているのに、外で遊んでいる」という情報もよく寄せられています。学校でも指導をしていますが、早く帰るようご家庭でもお声掛けをお願いいたします。